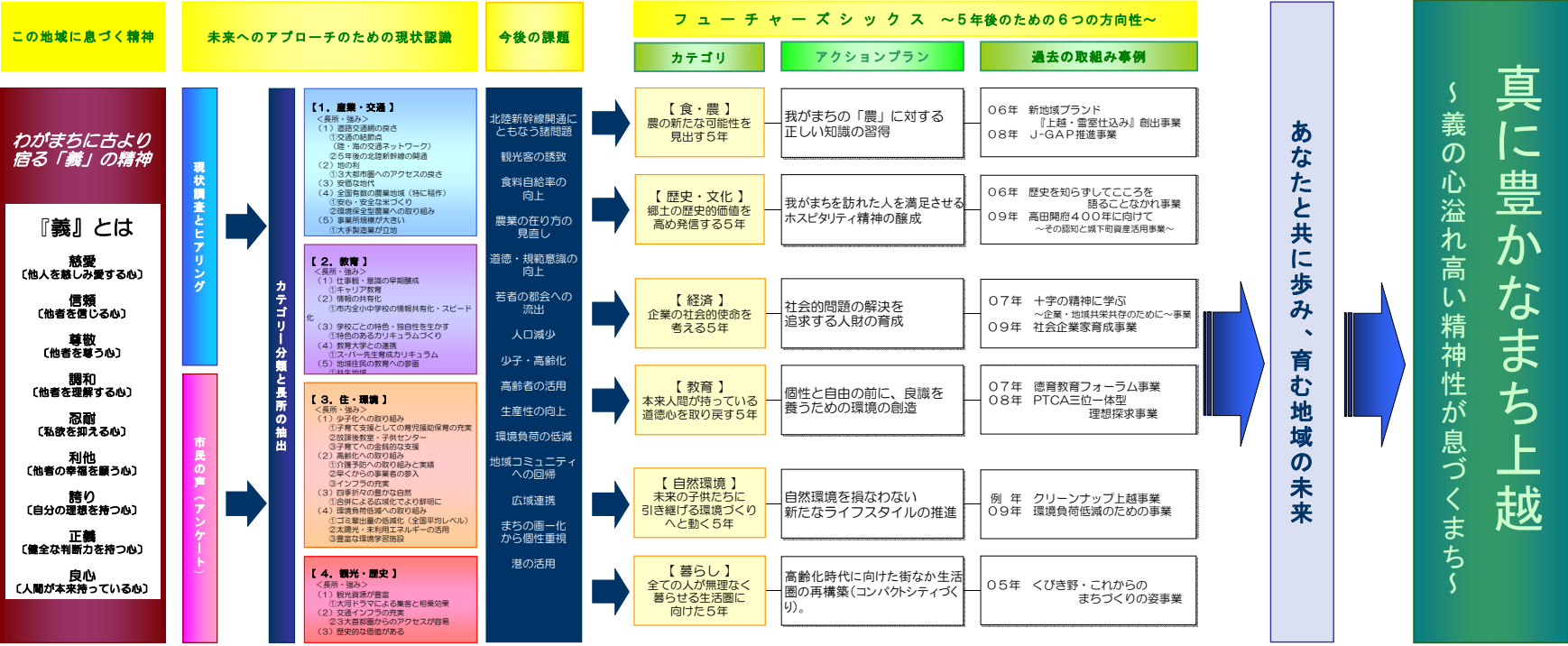


義の都上越

～謙信公が愛したふるさと～



5年後の2014年・・・

わがまち上越を訪れることになる大きな変化を予測するにあたり、一番明確予測が出来る年は2014年です。それは、北陸新幹線が開業し、高田が開府400年を迎えるという年にあたるからです。また、道州制についてもより身近に感じられるようになっていくと予想されます。

これらの地域環境の変化にいち早く対応し、あるべき姿を指し示すことなしに私たちの住むこの地域は、地域間競争に立ち向かうことはできず、将来どこでもある地方都市として埋もれてしまう可能性があるのではないのでしょうか。まずは私たちの地域が歩む道を明確にし、そして地域に住む人々が共通認識の下に共にまちを育てていくことが、わがまちの未来への飛躍を可能なものにする必要条件ではないでしょうか。

私たちの地域が歩むべき道。それはこの広い地域が各々にもつ特色や、持てる資源を最大限生かし、伸ばしていくことが必要であると考えます。この地域が持つ良さは様々あります。例えば、自然豊かさが豊富です。しかし、単にそれだけでは、それは日本全国どこにでもあるものに過ぎません。この良さをわがまちの独自貢献点へと高めいく努力が必要です。

わがまち上越は、上杉謙信公の時代から「義」の精神が受け継がれてきました。「義」とは人が守るべき正しい行い、他者を思いやる心を指しています。私たちが住むこの地域は、義の精神が宿っています。そして、地域の独自性を育むためにはここに住む人々の「義」を進化させていくことが必要です。

義の都、それは、私たちの心が創ります。

「あなたと共に歩み、育む地域の未来」 その先にあるもの

「私」ではなく「あなた」と一緒に。一人ひとりの考え方が違うのは当たり前です。その中で、まずはこの地域の良いところ、そして課題となるものを見つめ直してみました。ここで大切にしたいのは、自分以外のまわりの価値観や考え方を認め、理解していくこと。相互理解が深まることで、私たちの生活するこの地域が抱える問題を解決のための矢印は、同じ方向を示すはず。示した矢印の方向が合えば、その解決に向かって動き出せます。あなたと共にこの地域を育てていけるのです。

古より伝わる「義」の精神。私たちは、この地に時を超え息づく一つの思想で結ばれています。そんな地域住民全体がふるさとを愛し、この地域の問題をわが問題として考え、共有し、解決に向けて動き出すことで、このまちの未来を共に創り上げて行く。言い換えれば官と民との協働によるまちづくり。そんな地域を目指していくことが理想であると考えます。

真に豊かなまちとは、気高き精神性で結ばれた人々が、この地域の将来を真剣に考え、自分たちが積極的にまちづくりに関わっていくようなまちです。

21世紀初頭。私たちは、今大きな価値観の大転換期の中で生きています。世の中の変化は大きく2つのものによってもたらされると言われます。一つは「思想」、もう一つは「技術」。この2つが価値観を大きく変えてゆきます。物質的な、目に見えるモノの豊かさから、「こころ」の豊かさを求める時代へと。誰もが共感共鳴できる確かな価値観が求められています。

今こそ、私たちの中に宿る「義」の精神を呼び覚まし、本当に「豊かなまち上越」を創り上げていく時です。誇りと情熱を持ちながら。その先には他とは異なる、理想の姿があるはず。

フューチャーズシックス ～5年後のための6つの方向性～

【食・農】 農の新たな可能性を見出す5年

我がまちの「農」に対する正しい知識の習得

わが国とわがまちの農業

わが国の食料自給率は現在41%となっております。これはわが国が食料の大半を輸入に頼っていることを意味します。もし世界の食料需給が危機に瀕した場合、各国は自国内の供給を優先し、国外への食料輸出を抑制するでしょう。そうなれば、日本は国内生産で食料供給を賄わなければなりません。

わが上越地域は稲作を中心に多くの作物が生育可能と言う恵まれた環境にあり、「食料生産基地」となる可能性を秘めております。しかし、現状では食文化の変化や若者の都市部への流出、農業所得の低迷などから農業の担い手が減少傾向にあり、後継者不足による急激な高齢化などの問題も抱えております。

その中でこの地域の生産者は稲作においては、田植え時期を5月中旬にすることで高品質なお米作りをしたり、農業・化学肥料を5割減らした栽培など、おいしく安全なお米の生産に取り組んでおります。

正しい知識の習得と理解

私たちは、まずはこの地域の農家の取組みを正しく理解する必要があります。地域の消費者の理解と支持がなければ、地域の農業の発展はありません。

地域住民全員がこの地域の農家の取組みを正しく理解することで、この地域の農産物に対して誇りを持つことが出来ます。また、おいしさの理由はもちろん、安心・安全な理由や、環境にいかん配慮しているか、生産物に対する付加価値を高める取組みなど正しく地域外の方にも説明することが出来ます。

この地域から産出される食料を、地域内だけで完結するのではなく、この地域の智慧をもって外の地域へ発信・供給することになれば、農業という分野のみならず市街地を含めた地域活性化にもつながるのではないのでしょうか。

信頼という絆が繋がれた消費者と生産者が力をあわせ、相互理解の下、この地域の「農」の可能性を見出していきましょう！

【経済】 企業の社会的使命を考える5年

社会的問題の解決を追求する人財の育成

社会的使命感の喪失

ここ数十年、食品偽装や、不正請求、賞味期限の改ざん、耐震偽装など、企業本来の存在意義を揺るがす不祥事が後をたちません。今よりもっと良い未来を作るために活動するべき企業が、それを忘れ、今だけ、自分だけ、お金だけを優先させる風潮が見受けられます。

奇しくも教育の現場でも、生徒や教師の道徳心や倫理感、思いやりの欠如など根本を一にするような問題が取りざたされていますがこれは偶然でしょうか。

企業の目的は永続にあると言われます。この永続を実現するためには時代を超え、生を超えた企業(経営者)の哲学や生き様が根本となります。今それが問われています。

企業も人も、詰まるところ誰かを喜ばすために存在しています。自分のためだけでなく、今こそ世のため人のためという考え方を見つめ直すべき時です。

正しい使命感をもった人財の育成

本年(社)上越青年会議所では、社会起業家の育成というテーマを掲げ、活動して参りました。それは社会でおこる問題の解決というこれまでボランティア的要素が強いと思われていたものを、高い使命感により社会の価値観に変革をもたらすような、かつ長期的に取り組める活動です。またそれは利益を生むことのできる活動でもあります。

昔は単なるボランティア活動であったものが、今は社会の価値観を変えていける活動へと発展しています。このことは、利益の追求という企業活動だけでなく、世のため人のためにつくすことや、そこに関わる人の成長させるという教育性を同時に満たすことが大切な時代であるということです。

(社)上越青年会議所では、今後5年間で更なる企業の社会的使命感や正しい経営観の醸成に資する活動を行って参ります。それがこのまちの青年経済人が組織としての役割であると考えます。

【歴史・文化】 郷土の歴史的価値を高め発信する5年

我がまちを訪れた人を満足させるホスピタリティ精神の醸成

歴史を学ぶ

わがまちには上杉謙信公の居城春日山城、高田城址公園の三重櫓など様々な観光資源があります。一方でその様々な観光資源を活かしきれていない現状があります。

5年後の2014年には高田が城下町として成立してから400年目の節目、すなわち開府400年が訪れます。しかしながら、地域の方々からの開府400年に対する認知度は極めて低く、このままでは単なる400年目の1年として歴史の中に埋没してしまう可能性が高いと思われます。

また、昨今大河ドラマの舞台である上越が全国的に取り上げられるチャンスにも、思うように観光面での効果を上げられていないように感じてはいないでしょうか。

この問題の原因は様々あると思いますが、その中のひとつには私たちがこのまちの歴史というものを深く理解しきれていないということがあげられると思われます。

ホスピタリティ精神の醸成

この地域の歴史を深く理解した上で、この地域外から訪れる方々に、「ここに来て良かった」と思われるようなホスピタリティ精神を醸成させる必要があります。この地域のファンになって頂くために、歴史・文化の切り口から一人ひとりが観光ボランティアのような役割を担っていかなくてはなりません。この地域の歴史をしっかりと学ぶことで、市民全員がこのまちをセールスすることが可能となります。

それには2014年の高田開府400年はまたとない好機であります。5年後の開府400年をきっかけに、この地域の特色や独自性を理解しながら、市民一人ひとりが城下町高田に対しての認識を新たに、その特色を有形無形のふるさとの宝として昇華させていき、この地を訪れた人に満足して頂くことが必要です。

郷土の歴史的価値を高めるために、地域住民一人ひとりがこの地域の歴史をしっかりと学び、この地域を訪れる人に対して観光という部分でのおもてなしが出来るようになりましょう！

【教育】 本来人間が持っている道徳心を取り戻す5年

個性と自由の前に、良識を養うための環境の創造

個性と自由の尊重の先に

戦後の教育改革から半世紀以上が経過しています。戦前の教育が平等、画一を基本していたのに対し、戦後は自由、多様、個性の尊重を重んじてきました。

その新しい教育を受けた団塊の世代、そしてその世代を親にもつ団塊ジュニア世代、そして現在では平均的な団塊ジュニア世代が結婚し出産を経験、親としての役目を果たしています。

そうした中、世の中では個性や自由を尊重しすぎるあまり、相手を思いやれず、規律や規範からかけ離れた、良識のない言動や行動が大人にも子供にも見受けられるようになりました。今やそのようなニュースは日常でありふれています。

その原因は、戦後の教育の中で、個性の意味を自由奔放に生きること、法律に触れなければ何をしても良いという様に、誤って認識されるようになったことではないでしょうか。

個性や多様の前にもっと大切なものがあるはずです。

こころの教育の推進

「義」という言葉の背景には、「美しくありたい、美しく生きたい」という人間が元来もちあわせる根本的、普遍的な哲学を含んでいます。また、人にはもともと持ち合わせている良い心、良知があります。困っている人がいたら手を貸してあげたいと思う心のことです。

自らの個性や自由を尊重する前に、私たちはもっと絶対的な普遍である、躰や道徳による良識を養うことに目を向けなければなりません。これらは現在軽視されているのではないのでしょうか。

躰や道徳に理屈には馴染みません。なぜ必要かといえば、美しくありたいと思うところから自然に出るものだからです。結局のところ、美意識を育てることが重要です。

これまでも私たちは、こころの教育に光をあてた運動を展開して参りました。「真に豊かなまち」には更なる運動が必要です。

フューチャーズシックス ～5年後のための6つの方向性～

【 自然環境 】 未来の子供たちに引き継げる環境づくりへと動く5年

自然環境を損なわない新たなライフスタイルの推進

ふるさとを子供たちに引き継いでいくために

産業革命以降、大量生産・大量消費・大量廃棄をすることによって、私たちは経済を発展させ生活を豊かにしてきました。しかし、これによって同時に、様々な環境問題という課題も残してきてしまいました。

しかし、人々が「環境問題は重要だ」と思うだけでは、この時代は本当の「環境の時代」へと変わってはいきません。ひとりひとりの環境に対する正しい行動の実践によってのみ、この時代は本当にやってくるのです。

現在では地球環境改善のため、一部の国家や企業が改善目標に向けて多大な犠牲を強いられておりますが、本来この地球に住む、地域に住む一人ひとりが日々の生活の中で他を思いやり、少しずつでも環境負荷低減に努める事こそ「母なる地球」その中の「私達の故郷」を子々孫々に引き継いでいくために、最も重要なことではないでしょうか。

自然に配慮したライフスタイル

現在様々な環境問題に対して、環境改善運動が叫ばれている中、いまだ他人事のように考え、日々の生活を送っている。それが現実ではないでしょうか。環境の変化は数年では体感することが非常に難しく、また、実感できるころには既に修復が難しい状態になっているのではないのでしょうか。地球は現在生存している人類だけのものではありません。100年後、1000年後の人類を含めた多くの生命のものなのです。自然豊かな地球を今生存している人類だけのエゴで破壊しても良いのでしょうか。水の星、緑の星、地球を守るためまずは私達の地域から行動を起こす必要があると考えます。

普段の生活に環境を考えた行動が、当たり前となる生活が本来のエコであります。3Rと言われるリデュース(減容)・リユース(再使用)・リサイクル(再利用)はもちろんのこと、自転車の活用など、身近に出来ることはたくさんあります。

持続可能な社会システムの構築に向け、一人ひとりが新たなライフスタイルを推進しましょう！

【 住環境 】 全ての人が無理なく暮らせる生活圏に向けた5年

高齢化時代に向けた街なか生活圏の再構築（コンパクトシティづくり）

コンパクトなまちづくりの必要性

本ビジョンを策定するに当たり実施した住民アンケートから、現在の郊外を中心にして配置された官公商業施設を主体とした生活スタイルが、高齢化の進展や公共交通機関への不安、また自然環境の上からも、必ずしも快適で暮らしやすいとは言えない側面が見えてきます。具体的には、高齢者にとっては買い物するにも、病院に行くにも車で移動することが前提となっているため、非常に不便を感じる方が多いということです。(バスでの移動にも本数や路線の問題から不安を感じている方が多いようです。)

つまり、現在のまちづくりの基本的な姿勢として郊外へとまちの面積を拡大してそこへ可住地を含むすべてのものを整備していかうしてきましたが、高齢化や人口の減少により、外へ外へと拡大していくことが必ずしもまちの姿として優れているとは言えないのではないのでしょうか。同時に、私たち市民の住むまちに対する愛着意識やコミュニティが希薄になっているのもこうしたまちづくりの在り方に原因の一端があるのではないのでしょうか。

街なか生活圏の再構築

わがまちが抱える問題をクリアする一つの姿として今こそ、駅前の中心市街地を核とした生活圏を再構築することが必要です。

左記の問題は、行政主導で行われる都市計画の問題だけでは片付けられず、このまちで暮らす人々のライフスタイルに対する市民意識の醸成と、協働での働きかけが必要です。

高齢化社会が進む中であって、徒歩や自転車で回遊でき、住まいや店舗などの魅力のある多様な機能をもった、賑わいあるまちにしていかななくてはなりません。そこでは地域の歴史や文化を生かした特色ある産業が根付き、お年寄りから子供まで世代を超えたコミュニティの場があります。また、日常の生活の大半の用事が身近な場でまかなえる、安心して暮らせるまち。

(社)上越青年会議所では、5年後のあるべき姿としてコンパクトなまちを目指し活動を推進します。

(社) 上越青年会議所が取組む今後の5年間

これまでの取組み

【食・農】
2006年
『上越・雪室仕込み』ブランド創出事業
価値の創出として雪室を使用した新しい地域ブランドを起し、それを基に商品を開発して、地域内外へ情報発信することに取組んだ。

2008年 **J-GAP推進事業**
食の安全への取組みにおける生産・流通過程を正しく管理する生産の重要性について認識を深め、GAPの普及・発展を促進し、GAP先進地域への起点とするために取組んだ。

【経済】
2007年
十字の精神に学ぶ事業
～企業・地域共栄共存のために～
「企業の地域貢献活動」の実例を聞くことにより、「地域企業のあるべき姿」を考えた。

2009年
社会企業家育成事業
「地域の中小企業または個人が社会貢献の理想を掲げ、本業またはその一部として継続的に活動できる人」である社会企業家の育成と開発に取組んだ。

【自然環境】
例年
クリーンナップ上越事業
高田公園のごみ拾いという活動を通じ、環境に対する意識の改革を促すことに取組んでいる。

2009年
環境負荷低減のための事業
日常の中に存在する改善可能な環境負荷を意識的に低減する活動を実践していきながら、目の前にある環境問題と真摯に向き合うことに取組んだ。

【歴史・文化】
2006年
歴史を知らずしてころを語ることはなれ事業
ふるさとの歴史を再確認し、歴史に根付くころを知ることに取組んだ。

2009年
高田開府400年に向けて
～その認知と城下町資産活用事業～
城下町高田の生い立ちを知り、開府400年に向けた運動の必要性を訴え、城下町高田の独自性を活用していく仕掛け作りを取組んだ。

【教育】
2007年
徳育教育フォーラム事業
子供達に夢や希望を持つことの大切さを訴えかけられる大人を育成することに取組んだ。

2008年
PTCA三位一体理想探求事業
PTAに地域(コミュニティ)の参画する組織体を広めるため、モデルケースの地域にその仕組みの重要性を認識して頂き、親・学校・地域の三位一体の「共育」の実現を目指し、地域の諸団体の目的・方向性の同軸化を図ることで地域住民に教育環境の意識の向上を促すことに取組んだ。

【暮らし】
2005年
くびき野・これからのまちづくりの姿事業
全国でも最大級の広域合併を迎えた上越地域。より具体的に今後の上越地域のまちづくりのあり方を考えた。「上越地域の各コミュニティの魅力」を抽出し、「各地域独自の魅力」を再確認した。『コンパクトな都市』という未来像を理想とし、地域の将来像とそれにあつた、まちづくりの方向性を考えることに取組んだ。

今後の取組み

私たち社団法人上越青年会議所は、上記の他にも明るい豊かなまちづくりをキーワードとし、ふるさとのため、この地域の豊かな発展のため様々な取組みを行って参りました。

2014年、北陸新幹線が開業し、高田開府400年が訪れます。この地域にとって大きな環境の変化が訪れた時、私たちのこの地域が「地域間競争」という流れの中に埋もれてしまわないように、今後5年間【真に豊かなまち上越】、つまり『高い精神性をもつ人々が生活するまち上越』を目指し、『フューチャーズシックス』の方向性をもったアクションプランの実践に取組んで参ります。

私たち社団法人上越青年会議所は、この地域の特色である「義」の精神を土台とし、その精神を醸成させるとともに、これまでの取組みから得たものをさらに進化させ、この地域の健全な発展を目指してして行きたいと考えます。

地域の方々と共に・・・ あたなと共に歩み、育む地域の未来へ・・・

そして 『真に豊かなまち上越』 の実現を目指しましょう！！